

奨励賞



設計担当者

北村陽子

北村陽子けんちくアトリエ、石川県建築士会

事務所併用住宅／石川県金沢市

金石町家つなぎプロジェクト

構造 | 木造

階数 | 地上2階

敷地面積 | 103.84㎡

建築面積 | 72.34㎡

延べ面積 | 105.15㎡

竣工年 | 令和2年



1



2

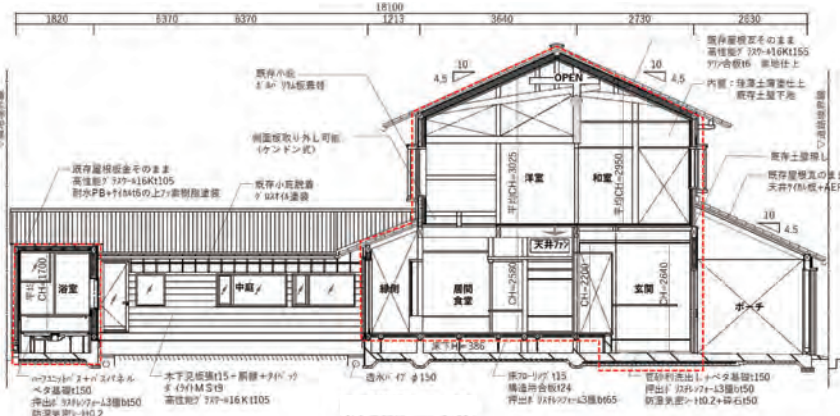


3



4

- 1 様々な家具を配置し、家族が時間や気分に合わせて居場所を見つけられる、時の流れを感じる「静」の空間
- 2 地域性からくる外観デザインを採用。電気ガスメーターを隠蔽し、景観に配慮
- 3 暮らしのcockpitとなるような、いつもはたらく「動」の空間。厨房家事室は窓枠と一体化した一直線の長いカウンター天板で北側の安定した光を受けとめる
- 4 大屋根の丸太梁を現しとした、おらかな2階



断面図

選評

このプロジェクトは築80年以上経過した金沢市内の町屋のリノベーションである。この住宅の設計者自身が家族4人で住むための新居を構えようと土地を探したところ、予算や規模が希望と見合うものの多くが古い町屋付きの土地だったところから、このプロジェクトは始まったという。

そのような経緯で始まったプロジェクトではあるが、過度にコストをかけることなく町屋の耐震性や温熱性能を向上させ、現代の生活に適う

良質な住宅として再生することに成功している。ここでは基礎をRCべた基礎に改修し、1階床面を100mm上げて床下に配管のメンテナンススペースを確保し、既存天井材を撤去して気積を確保した居間を造り、耐震補強を行い、断熱材で居住空間を覆うという地道な取り組みがなされている。

計画的には、既存には無かった車庫とポーチを玄関前に設け、冬の厳しい海風と雪・雨や海砂の吹き込みを防ぐ緩衝空間とし、冬季

以外には外部側の格子戸、玄関の格子戸を通して海風を取り入れ、上階と中庭に風を流す工夫が地域の気象条件を巧みにコントロールしている点が高く評価できる。

このような取り組みは町屋に限らず、古い木造住宅全般に適用できる汎用性が高いものであり、保存・再生のプロトタイプとして高く評価するものである。

(箄島 亮)